

夜回り通信VOL27 2009年 4月

ここまでのふりかえり

- 1 2008年3月31日 大晦日の炊き出し in 榴ヶ岡公園 at 12時
寒風吹きすさぶ中、ビニールシートで風よけをつくり、年越し蕎麦・うどんの炊き出し。約50人の方がお出でになった。テレビの取材が入り、選挙を意識した立候補予定者が入り込んできて前を陣取って活動なさっていたのには、やや辟易した。
- 2 2009年1月3日 正月餅の炊き出し in 五橋公園 at 12時
某党の衆議院議員や立候補予定の元天気予報士などがお出でになり、カメラの追っかけがうるさかった。
- 3 2月の夜回り (2月11日) 久しぶりの夜回りに状況もすっかり様変わりしていた。国際センター裏手の川沿い洞窟を快適空間にしていたSkさんは工事のために追い出され、Hさん達に相談してやっと萌友アパートに入れてもらって落ちついたとのことだった。それまでしばらくさまよっている間に、他のホームレスから数回暴力やイジメを受けたとのことだった。西公園旧図書館に流れ着いた口達者のWさんも、なんと萌友アパートに入っていた。「高橋さん(私)に宜しく伝えてくれ」と聞いた。入居時の面接では、2時間一人でしゃべりっぱなしだったそうである。さもありません。何があっても不変に見えるのは公園陸橋下のOさんであった。……
- 4 2月の炊き出し(2月14日) 公園に集まった路上生活者45人。(女性1) 春一番の寒風の中、また議員がぞろぞろお出でになった。この日は某党の代表代理が来仙して街宣活動の後立ち寄られた。取材テレビがゾロゾロともものものしい。私たちの行っている炊き出し活動や募金活動について、テレビの取材が入らなければ興味がない又は意味がないと思われる良識ある方もいる。現場を一度でも見て下さったら本当はありがたいと思う。わたし自身は、「ボランティア活動制度」の効果もあって、生徒が継続的に参加するようになったことを喜びとしている。
☆小学校・高校から衣類と食品の献品多数。☆献金…高校卒生(1.5万)、高校職員(2千)、修道院(1万)、他(5千) ☆ボランティア高校生4人。
- 5 パレスチナガザ地区緊急救援街頭募金～2月15日・22日 11:30～13:30
炊き出しの母体である正平協から「貴校の生徒さんにご協力いただけないか」という要請が来たもの。放送部員とボランティア同好会の生徒ら(顧問の呼びかけによる)の協力を得た。参加は、15日3人、22日10人。両日とも正平協の方達(おじさん、おばさん方)に制服姿で交じて寒風の中「ご協力お願いします。」の声を張り上げて頑張った。すばらしかった。2年生の放送部はずっと拡声器でやってくれた。募金活動の難しさや街頭の人のあたたかさや直接ふれる機会でもあった。募金額 15日—62,813円。22日—93,163円。

……活動後に生徒達に提出させている報告書を見ていつも気になることがあり、ボランティアに入る前に集めて話すことにした。「このボランティアでホームレスの方と話をすることができるかどうかはそれほど重要ではない。炊き出しの準備手伝いや現地での配布係などに精一杯参加することが一番。その中で社会にふれ、自分の身の回りを振り返ったり進路について考える材料になってくれればよいのだ。」と。
- 6 3月の炊き出し(3月14日) 公園に集まった路上生活者57人。(女性1) 不定期就労者の方が金が尽きると増えてくる。正平協スタッフの注意が気にくわなかった酔っぱらいが一人声を張り上げて怒鳴っていた。やっと静めたもののイライラの気持ちも分かるので、その場がシュンとなった。そのことは後の反省会でも出た。☆ボランティア高校生8人。
- 7 4月の炊き出し(4月11日) 公園に集まった路上生活者47人。☆ボランティア高校生8人。
反省会での私の言「以前と違い一回限りの参加型でなく、継続的に参加する生徒が増えてきてうれしい。」

(文責 高橋 寛)